

官民連携のまちづくり活動における 市民合意形成

座長	上野俊司	国際航業(株)
話題提供者	伊藤将司	(株)福山コンサルタント
	林 将廣	(株)アイ・エス・エス
	森本章倫	早稲田大学

日時	平成29年9月13日(水) 13:00~15:00
場所	九州大学
教室	センター2号館 2407

コンサルタント委員会
市民合意形成小委員会



『官民連携のまちづくり活動における 市民合意形成』

平成29年9月13日

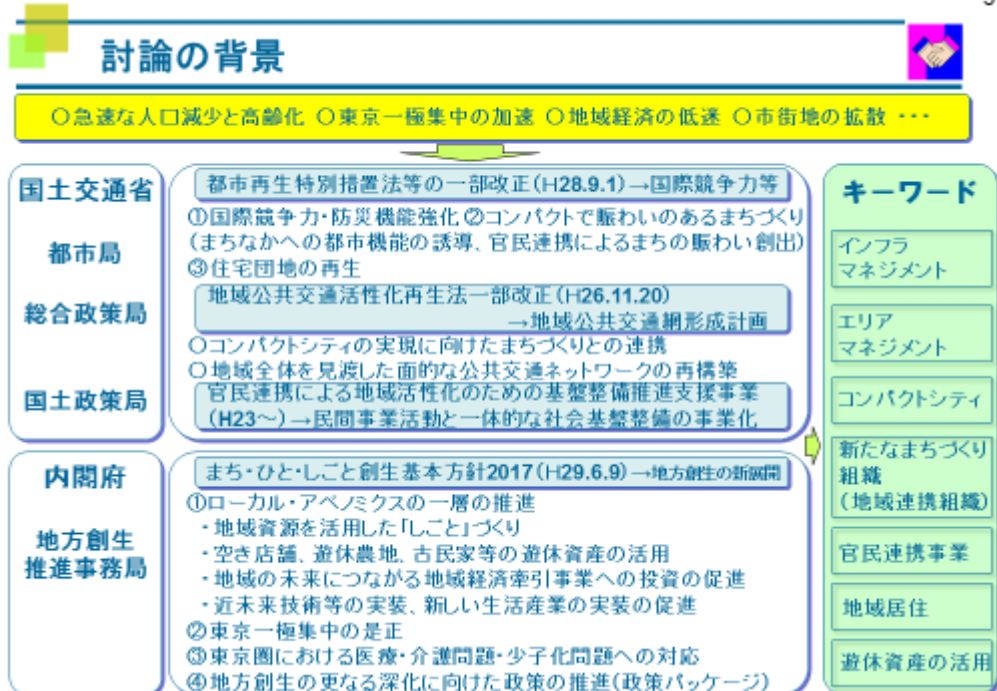
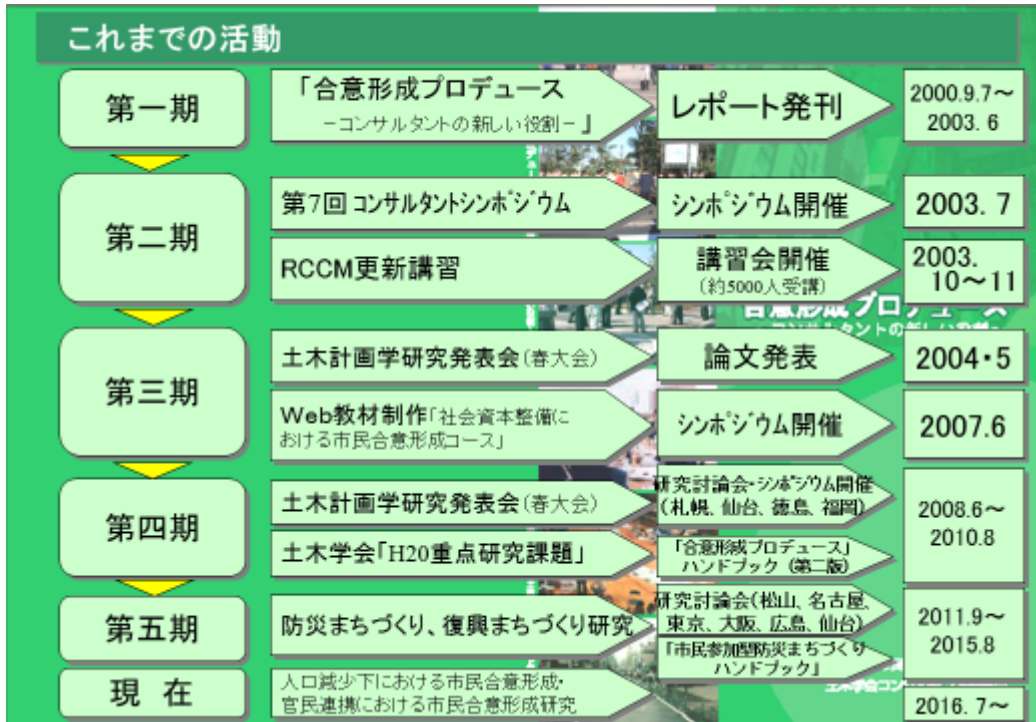
土木学会コンサルタント委員会
市民合意形成小委員会委員長
国際航業株式会社 上野俊司

討論会の目的



合意形成小委員会は、急速に進展する人口減少や少子高齢化に伴う財政制約下での持続可能な都市経営のニーズに対応した、官民連携のまちづくりに着目。

本研究討論会では、社会資本整備や防災まちづくりの市民合意形成研究の成果を踏まえ、官民が連携してまちづくりを行っている先進事例を題材に、その活動を行う上で求められる市民合意形成のあり方と専門家の役割を探る。



官民連携のまちづくりにおける市民合意形成の視点

株式会社 福山コンサルタント 伊藤将司

1. 官民連携における新たなまちづくりのテーマ

官民連携のまちづくりが進められており、市民や民間が主体的に関わるなど、多様なまちづくりの形態が見られる。本委員会で議論をしてきた下記に示すテーマのまちづくり事例を紹介し、今後検討及び対応すべき視点を議論したい。

官民連携のまちづくりの市民合意形成の扱うテーマ例

テーマ	概要	事例
①中心部等の活性化関連の取り組み	・中心市街地活性化、空き店舗利活用等の具体的なまちづくり事業における官民連携	・まちづくり組織による中心市街地(油津商店街)の活性化(油津応援団) ・中之島周辺の河川敷を活用した川床による活性化(北浜テラス)
②公的施設・空間の利活用	・官民連携による公的施設や公共空間の有効活用を通じた地域の活性化	・イベント的活動による公園やオープンスペースの利活用(ハマノトウダイ) ・公共空地を活用した市民の自主運営による活性化拠点づくり(シーニックかふえちゆうい)
③過疎地域における市民組織による活動	・多様な主体による地域づくり活動、まちづくり事業に関する市民の関わり方	・地域組織の自主活動における、まちづくり事業の経営・運営(雲南市)
④民間活動の支援を目的とした経済的支援	・地域活動・事業に関する経済的支援	・地方公共団体によるクラウドファンディング(FAAVOさばえ)

2. 官民連携における市民合意形成の議論の視点

上記の官民連携まちづくりの市民合意形成について、建設コンサルタントが関わるべき事項や支援等について、以下に整理する。

①自治体の事業全体における活動の位置づけ

- ・ 支援する活動の選定や優先性
- ・ 地域全体の活性化のシナリオ作成 等

②地域活動の意識の醸成

- ・ 課題の共有化
- ・ 活動事例の紹介 等

③地域活動のための合意形成の支援

- ・ 施策案の検討支援
- ・ 市民合意形成の実施(優先順位等)

④地域活動の社会的価値の評価

- ・ 社会的価値分析(SROI等)

⑤地域活動への投資意欲の醸成

- ・ 予算措置
- ・ SIB等

まちづくり活動事例



NPO法人 ハマのトウダイ

主な活動内容

- | | |
|-----------------------|-----------------------------------|
| ① 放課後キッズクラブ | 学校施設を活用した安全で快適な放課後の「居場所」の提供 |
| ② KUKU7会 | 大学生に中小企業の実態と魅力を伝えるキャリア教育 |
| ③ 地域商店街活性化 | スリッパ卓球選手権大会の開催による和田町商店街の活性化 |
| ④ 公園清掃 | 保土谷駅前公園の清掃活動を通じて公園のあり方を考える会 |
| ⑤ 公園活用 -Park Caravan- | 規制だらけの公園を本来の「開かれた」空間としての活用を目指す挑戦 |
| ⑥ 横浜アウトドアオフィス | 働き場にもアウトドアを持ち込みクリエイティブな発想を促す新オフィス |

公園活用 -Park Caravan-



「Park Caravan」とは・・・

・「公園を今よりもっと素敵な場所に！」を合言葉に、規制だらけの公園に新しいガイドラインとなり得るモデルケースを創り、公園を本来の「開かれた」空間として継続的に活用しようという活動。

・もう一つのテーマに「防災」を挙げ、テントの建て方等、緊急の際に応じて行動できるよう、事前に体験すると同時に地域住民どうしが触れ合うことで減災に繋がる試みを実施している。



公園活用 -Park Caravan-

保土ヶ谷駅前公園



2015年夏に行った、第1回目のパークキャラバン。
公園に人工芝を敷き、テントやテーブルを並べてアウトドアフィールドに仕立てている。

子供たちが考え、デジタルファブリケーションの技術を駆使して作ったオリジナル遊具のお披露目会を開催。

「防災」の活動として、参加者自らが設営したテントでの宿泊体験を実施。

写真はハマのトウダイWEBSITEより転載

公園活用 -Park Caravan-

防災食の屋台村



開催場所の保土ヶ谷駅前公園が、一時避難場所にも指定されていることを踏まえ、地域住民の防災意識喚起を目的とした防災備蓄食の試食会を開催。

現在の防災食が、普段食べる食事はかなり近くなっている事を周知することがもう一つの目的であり、その目的に賛同したメーカー7社の協賛によって、約500食という、試食会には充分すぎる量の防災食が用意された。

協力企業

アルファフーズ
アルファ食品
サン印向山食品工業
セイエントプライズ
非常食研究所
ポローニャFC本社
横浜岡田屋

写真はハマのトウダイWEBSITEより転載

公園活用 -Park Caravan-

高島水際線公園



広大な空間と運河を臨む独特の立地を活かして、テントの設営講習やスタンドアップパドル体験、潮入の池見学など、アウトドア色の強い内容。また、地元の食材を用いたのBBQ・カレーのほか、25年間保存できる防災備蓄食「サバイバルフーズ」の試食会を開催。

宿泊体験を通して「テントの中って意外に温かい」や「ご近所で誰がアウトドアに強いのか、知ることができた」等、実際に野外で寝てみたからこそ分かる感想が寄せられた。

写真はハマのトウダイWEBSITEより転載

横浜アウトドアオフィス

アウトドアオフィス実証実験



働き場にもアウトドアを持ち込み、五感に刺激のある屋外で会議を行なうことによって、クリエイティブな発想を促そうという、新しい働き方を提案している。

また、2020年の市庁舎移転後の関内地区まちづくりの検討が進む中、都市整備局とのコラボレーションにより、公共空間活用の社会実証実験を実施。市庁舎屋上に芝生を敷き、アウトドア会議体験などの実験を進めている。

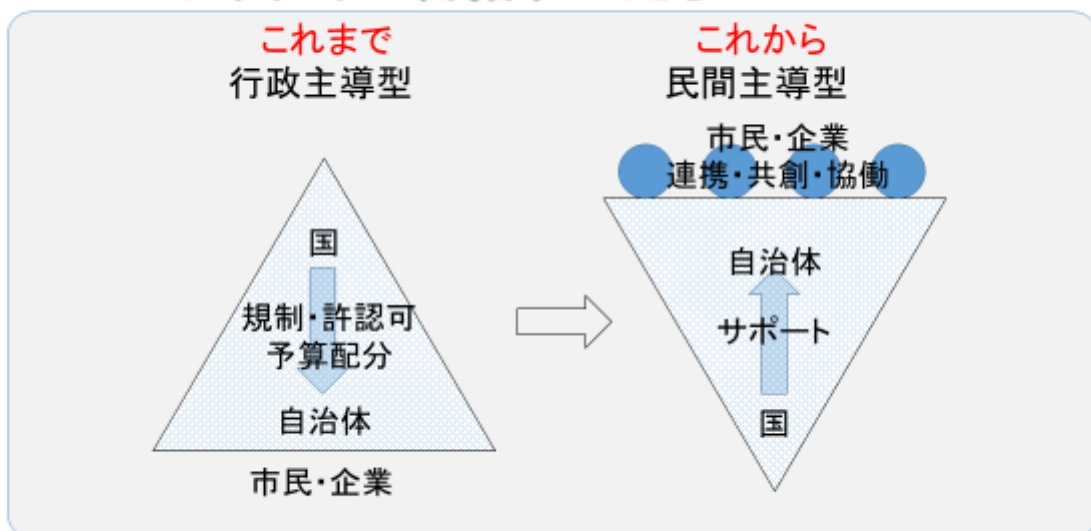
Yokohama
Outdoor Office
with
* snow peak

写真はハマのトウダイWEBSITEより転載

ハマのトウダイからの問題提起

高度経済成長期の人口増に伴い、大量に整備された公共施設の老朽化が進む中、地方都市の人口は今の半分。
街を歩く人の半数近くが高齢者となる世の中です。
公共施設・公共空間の管理は今のままでいいのだろうか？

ハマのトウダイが目指すかたち



街に住み暮らす市民・企業が自ら関わり管理する時代へ

以上